

〔論 説〕

ボトムアップ処理向上のためのリスニング指導  
—プロセス志向のアプローチに向けて—

山内 真理

1. はじめに

外国語学習者にとって、間違いなくリスニング能力の向上は不可欠である。しかし、聴解プロセスは学生の頭の中でのみ起こるという点で、教員にとっては教えにくいスキルでもある。Jones (2022) が自戒も込めて批判するように、プロダクト志向 (product-oriented) のリスニング指導—聞いて理解できたかどうか (リスニングの結果) の確認—だけでは、リスニングを「教えている」とは言えない。どうしてできなかったのかを明確にし、できるようになるためのサポートを提供するためには、プロセス志向 (process-oriented) のアプローチが必要になる。

本稿では、プロセス志向のアプローチを目指すケーススタディとして、遠隔リアルタイム方式で実施した2021年度秋学期の英語の授業実践を報告する。聴解プロセスの中でも、特にボトムアップ処理の向上を目指すリスニング指導である。効果があると想定されるプロセスに注目する指導と学習 (練習) 課題への取り組みを経て、ボトムアップ・リスニングの能力が実際に伸びたかどうか、どの程度の時間が必要かを確認する。また、授業評価アンケートの形で実施した意識調査を通して、学習者が自身の聴解プロセスに注目できているかを含めて、ここで目指すプロセス志向のアプローチを評価しうる質問項目を整備していく。

2. 日本人学習者の聴解プロセスの問題：未熟なボトムアップ・スキル

音声言語を聞いてメッセージを理解する聴解プロセスには、音のまとまりを意味のある単位に分割し、より小さい単位からより大きい意味の単位を構築していくボトムアップ処理と、文脈や背景知識を使って推論や予測を立てながらメッセージ全体を把握しようとするトップダウン処理が含まれる。スムーズな聴解プロセスにはこの両者が互いに相互作用しながら働くことが不可欠であり、その相互作用が首尾よく行われるには、ボトムアップ処理は自動化されている必要がある。ボトムアップ処理に意識的な注意が必要な場合 (処理が自動化されていない場合) は、より高次の処理 (前後の文脈と結びつける、言外の意図を推しはかる等) に必要な認知リソースを回すことが難しい。

聴解におけるボトムアップ処理には、音声分析、語彙分析、統語分析が含まれ、これらはほぼ同時進行的に進むが、まずは連続音を分節化 (音声分析) できなければ何も始まらない。音声分析は、耳から入る音を、脳内の心的辞書にある語句の音と照合させる作業であり、心的辞書に適切な音が記憶されていなければ「知っている」語句でもそうとは認識

できない (Baddeley et al., 1998; 山内, 2005; 門田, 2007; 西原, 2012; Fallahcha, 2011; 門田, 2015; 門田, 2018; Yamauchi, 2020; Reed, 2022)。この聴解プロセスの初期段階で困難を抱えている学習者は「自分がなぜ聞き取れないのか」分かっていない。彼らはまず自身の聴解プロセスに注目し、どこに問題があってどのようにすれば改善できるのかを認識する必要がある。リスニング問題を出し、その答えをチェックするというプロダクト志向のアプローチでは「指導」にはならないのである (Jones, 2022; Graham, 2016)。

ボトムアップ処理の時点で困難を抱えている日本人学習者が多いことは広く認識されており、効果的な学習活動・指導法の研究も数多くなされている (中村, 1997; 掛谷, 2004; 門田, 2007; 西原, 2012; 牧野, 2012; 湯舟他, 2013; 執行・カレイラ, 2014; 熊井, 2021)。いずれも、英語特有のリズムや音声変化などを含む Connected Speech の明示的な指導と音読やシャドーイングなどの口頭練習を重視しており、それは本実践でも同様である。本実践に特徴的な点としては、日英のリズムの違いを可視化するためのカタカナ利用、反復を促す自動採点式クイズ・動画解説・洋楽の利用、聴解プロセスの自己モニタリングを促す振り返りの活用が挙げられる。3節では、これらに触れつつ、本報告の対象となる授業実践を概観する。なお、本実践での教材や資料は Teams でオンライン配信しており、授業の進行の点で微調整をすれば、遠隔リアルタイム方式だけでなく、いわゆるハイブリッド方式、対面方式、オンデマンド方式のいずれにも対応可能である。

### 3. 授業の概要

本報告の対象は、2022年度秋学期の英語の授業実践である。受講生は32名、授業は遠隔リアルタイム方式で実施したが、一部キャンパスから受講した学生もいた (学期初めの3週間は全面的にリアルタイム方式での授業であった)。なお、春学期は教室での対面授業であったが、Teams で教材や授業資料をオンライン配信する形は春学期からの継続であり、技術的なトラブルや混乱はなかった。

#### 3.1 授業の流れ

典型的な授業の流れは表1の通りである。[1] [2] [3] は各自の事前学習を前提とする (3.2 および 3.3 を参照)。音声学習では特にインプットとアウトプットの反復が重要であることから、各自必要なところを必要なだけ繰り返せるよう、解説は録画版でも提供した。例えば、「[0] 前回のフィードバック」では、授業時に、学生からのコメントを整理したものを見せながら重要なポイントを口頭で説明し、それを録画で残した (図1)。<sup>1)</sup> [2] [3] のVOA 動画クイズ/音声クイズの解説でも同様に、クイズ (事前学習) の結果に基づいて重点的に説明すべきポイントをとりあげて解説を行い、それを録画に残した (図2)。なお、[1] の洋楽リスニング解説では事前に用意した解説動画を使いつつ、その場での補足やモデル発音も加える形に落ち着いた (3.2, 図4)。

[4] の Kahoot<sup>(1)</sup> または Quizlet Live は、VOA 学習で出てきた語彙・文法を定着させ、知識へのアクセスをスピードアップさせること (自動化促進) が主なねらいである。同時に、1人で受講することになる遠隔授業では、ライブゲームにおけるクラスメートとの競

表1 典型的な授業進行パターン

項目	概要	所要時間
[0] 前回のフィードバック	前回のリアクション・ペーパーに対するフィードバック（事前ないし授業時の録画）	10-15分
[1] 洋楽リスニング解説	音声変化・リズムの解説とモデル発音(事前録画を使った授業時の講義)	約10分
[2] VOA 動画クイズ解説	VOA 動画に基づく内容・語彙文法のクイズの解説。間違いが多かった問題などを重点的に。(授業時の録画)	15-20分
[3] VOA 音声クイズ解説	音声変化・リズムの解説とモデル発音。間違いが多かった問題などを重点的に。(授業時の録画)	15-20分
[4] Kahoot/Quizlet Live	VOA 動画クイズの解説と連動させた語彙・文法練習	15-20分
[5] スピーキング練習	a. Teams でのペアワーク（会議録画を残す） b. Flipgrid での個人ワーク（その週の土曜日までに提出）	約15分
[6] リアクション・ペーパー	事前学習・授業での学習を振り返る。質問も受け付ける。(当日中に提出)	約10分

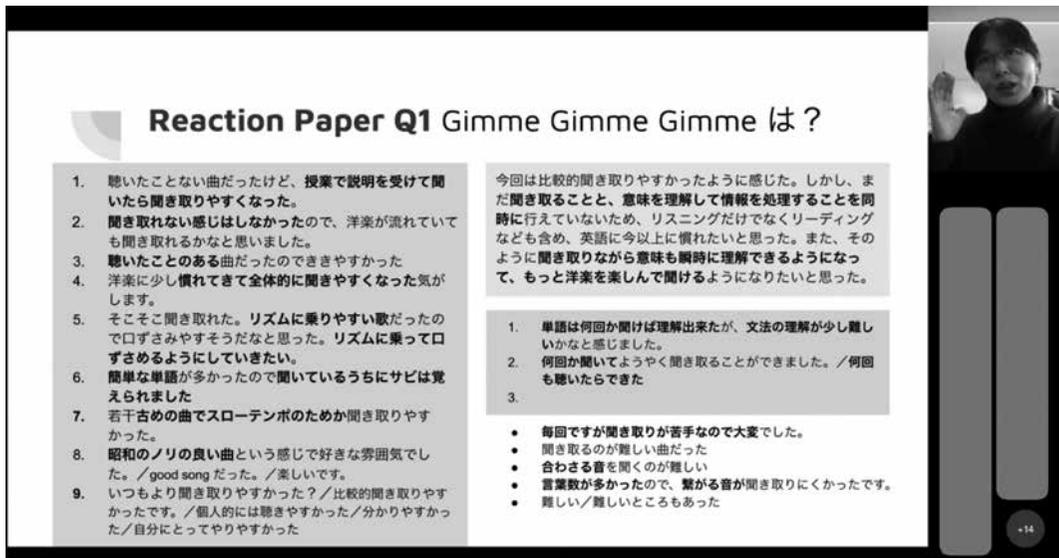


図1 前回の振り返りに対するフィードバック（授業内録画）

い合い要素は、学習活動への参加を動機付ける要素としても重要である。[5] のスピーキング活動は、その週のVOA動画から練習用の短文をリストアップし、「瞬発力トレーニング」(日本語を見て素早く英語に直す練習)を行うものであり、これも自動化促進をねらっている。クラスメートとの活動を好む受講生のために Teams でのペアワークのオプションを用意したが(図3a)、個人練習を行う Flipgrid 課題(図3b)を好む学生が大半であっ

(1) Kahoot! も Quizlet Live もクラス全員で競い合えるリアルタイムのオンラインゲームであるが、問題形式、競い合いの形式などに違いがあり、目的に応じて使い分けている。

部分ディクテーション(&シャドーイング)がおすすめ！

Anna: Well, then the robbers got themselves ( a ) the bus.  
Guy: Why?  
Anna: They didn't pay. You've ( b ) pay when you ( c ) bus. The police came and took them away.  
Guy: And that's when you hurt your arm?  
Anna: No.

(a) <音> kicked\_off : 連結→キックドフ  
<語句> get (~ self) kicked off = (自分たちが)追い出される  
off と of?

(b) go(t)\_to : /t/の変身も→「ガラ」  
(c) get\_on\_a : /t/の変身も→「ゲロナ」  
to が a にしか聞こえない?

図2 VOA 音声クイズの解説 (授業内録画)

図3a Teams 会議でのペアワーク

図3b Flipgrid の個人練習課題

た。最後に [6] のリアクション・ペーパーにて授業および事前学習の振り返りをまとめてもらう。前述のように、この振り返りについては次の授業でフィードバックを与えた。

ここまで、本報告の対象となる授業について、全体的な学習の流れを概説した。本報告の中心は、洋楽リスニング (表1 [1]) と VOA 音声クイズ ([3]) を利用したボトムアップ処理の向上のための音声学習であるが、この細部に注目する音声学習が、具体的な会話の状況における表現のインプットや、使える語彙知識にするためのアウトプット練習と関連づけられている点も強調しておきたい<sup>(2)</sup>。

### 3.2 洋楽リスニング

洋楽リスニングは、音声変化と英語のリズムを身につけるトレーニングの1つとして長年行っているものだが（Yamauchi, 2020; 山内, 2021; 山内他, 2021）、動画版解説の導入は2021年度秋学期からである。この学期で扱ったのは下記12曲である。

1. Bad Day (Daniel Powter)
2. Shake it Off (Taylor Swift)
3. Please Mr Postman (Carpenters)
4. September (Earth, Wind & Fire)
5. Nothing's Gonna Stop My Love for You (George Benson)
6. Just the Way You Are (Bruno Mars)
7. Too Much to Ask (Avril Lavigne)
8. Gimme! Gimme! Gimme! (ABBA)
9. Englishman in New York (Sting)
10. Last Christmas (Wham!)
11. All I Want for Christmas Is You (Mariah Carey)
12. Let It Go (Idina Menzel)

洋楽リスニングは、学生が予習として空所補充型の書き取りを行い（各自のペースで）、授業で教員が解説を行う（教員主導；図4を参照）というシンプルな活動である。

学生に指示した手順は以下の通りである。聴解プロセスとスキル向上のために意識して取り組んでほしいポイントをつけている（\*印）。これを毎回の解説動画のトップに載せた。授業中の解説は（2）であり、それ以外は授業外の個別活動になる。

#### 〈学生向けの手順指示〉

- (1) ひとつおとり、自力でワークシートの空所を埋める（印刷 or ノート）  
\*聞こえた音と単語をマッチさせるため→スペルミスは気にせず、カナを使ってもOK・粘りすぎる必要なし
- (2) 解説を確認＋発音リピート  
\*口を動かす→耳の反応がよくなる
- (3) 歌詞を見ながら口ずさむ  
\*音声変化に慣れて、リズムに合わせられるのが目標  
\*完璧は目指さず、難しければ7-8割でヨシとする

- 
- (2) なお、授業外の課題としてVOAと洋楽の事前学習に加え、毎回、語学学習アプリDuolingoを利用した自習も課した。基本的な語彙・文法・会話を音声付きで練習するプログラムであり、「理解できるか」だけでなく「パッと瞬時に理解できるか・口に出せるか」を意識して取り組むよう指示した。週1回の授業日以外も、各自が日常的に英語に触れ英語を口に出す機会をもつよう、そして効果的なやり方を意識して取り組めるようにとの意図である。本授業の履修者は、少なくとも学期中は相当量の英語に触れたはずである。

- (4) 意味を浮かべながら普通に歌えるように練習  
 \* 聞いてすぐ絵が浮かぶくらい、音と意味がマッチするのが目標  
 \* 全部が難しければサビだけでも

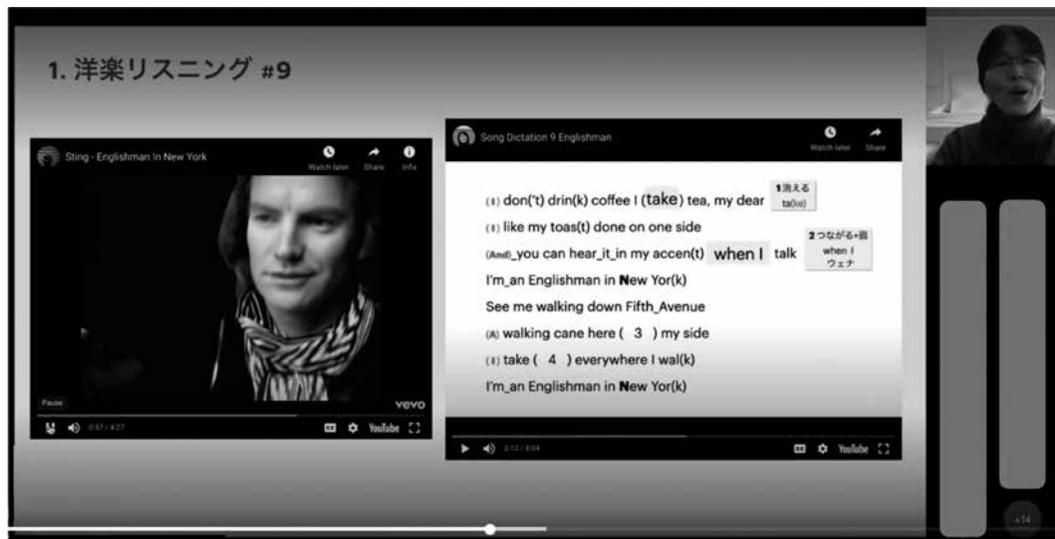


図4 洋楽リスニングの解説 (事前録画)

空所補充の書き取りワークシートはPDF版を授業用チームで配布した(図5)。上記の指示にあるように、学生はプリントアウトして書き込むか、ノートにメモをとる。図5に該当する部分で言うと、以下(1)-(6)が学習対象となる音声の特徴である。

1. I (take) tea : /k/ の脱落 (無解放破裂)
2. (when) (I) talk : /n\_əɪ/ の連結+二重母音のリズム (+弱形) → 「ウェナ」
3. (at) my side : /t/ の脱落 (無解放破裂)
4. take (it) everywhere : /k\_ɪ/ の連結+ /t/ の脱落 (無解放破裂) → 「テケツ」
5. I'm (an) alien : /m\_ən\_əɪ/ の連結 (+弱形) → 「アマネイリアン」
6. I'm a (legal) alien : ダークL → “-al” = 「オー」 → 「リーゴ」

解説では「脱落・消える・落ちる」「連結・つながる」「T変身・Tがラ行音に変わる」(= Flapped T)などの用語を用いる。前述のように、2, 4~6のようにカナ表記を利用し、IPAは使わない。カナ表記により、日英のリズムの違いを効率よく伝えることが狙いである。例えば、二重母音の /aɪ/ は英語では1音節であり、第2要素の /ɪ/ は弱い。カナ表記の「アイ」は普通に読めば「ア」と「イ」が同じ長さになる2拍である。リズムをつかむことを優先させるなら、1音節には1拍を対応させた方が早い。“when I”を口ずさむにも「ウェ・ン・ア・イ」(4拍)では無理だが「ウェ・ナ」(2拍)ならリズムもぴったり合う。当然ながらカナ表記には限界があり、教員による音声でのインプットで補足す

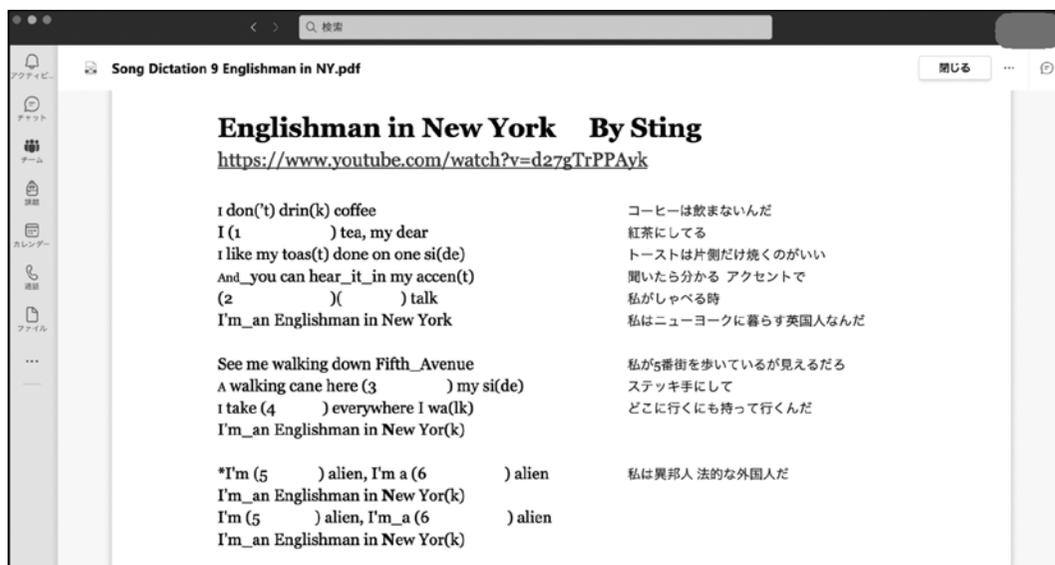


図5 洋楽リスニング用ワークシート (Teamsにて配信)

ることが不可欠である。授業時はもちろん口頭でモデル発音も与えるが、見返す時にも文字情報のみより音声がある方がよい。これが動画版の解説を用意した主な理由である。

学生には教員の後にリピートするよう促してはいるが、遠隔授業ではそのモニタリングはせず、指名して答えさせる<sup>(3)</sup>こともしなかった。上記〈学生向けの手順指示〉に従って、地道に個人練習するのが一番の近道であると繰り返し説くにとどめた。

その場でモニタリングする代わりに、授業後のリアクション・ペーパーには、毎回洋楽リスニングについての簡単な振り返りを求める欄を設けた。学生の振り返りコメントに対するフィードバックは翌週の授業で、録画しながら口頭で行う(3.1節)。この回(洋楽リスニング#9)の振り返りを見ると、聞こえるまで繰り返したという報告(a)、伸びた実感の報告(b)、課題や困難についての質問や報告(c)、困難への対処法と伸びの報告(d)など、多くが自分のリスニングプロセスにきちんと注目してコメントを残している。聴解プロセスへの注目が無い「楽しかった」「難しかった」のようなコメントもあるが、翌週のフィードバックでは、a~dのようなコメントを共有し(3.1節、図1を参照)、その良い面を強調することで、プロセスへの意識づけを促そうとした。

- a. 3回目に少し聞き取れた／聞き取りしやすい所があったが、その文と文の間にある単語が聞き取りにくく、何回も繰り返し聞いた／1回では少し聞き取りにくかった。何回か聞いたらそこそこ聞き取れたので良かった。
- b. 若干だけど右の日本語訳から入る歌詞を予測することが今回はできた／耳が英語に慣れてきた気がする／つながるところがだんだんとわかるようになってきた／解説

(3) 遠隔リアルタイム方式の授業には適していないという判断もあったが、学生の意識が「プロダクト志向」になることを避ける意味もあった。

を聞いて、分からなかったところがそのように聞き取れるようになった/no matter what they say がはっきり聞き取れて気持ち良かった

- c. 自分は消える音であったり、繋がったりする音の聞き取りが出来ていないなと思いました。ちゃんと聞き取りするためには洋楽を聞いたりした方がいいのかなと思いました。/いつもよりもつながる音に変化していてむずかしかった。
- d. 今回は前回と比較して聞き取りにくかったように感じた。しかし、前後の単語や文の構成などからある程度予測して聞くことで、ほとんど聞き取ることができた。また、T 変身や、つながる・消えるなどのパターンがある程度知識として身につけてきたため、上手く聞き取れなくても、焦らずに予測できるようになってきたように感じる。

### 3.3 VOA 音声クイズ

VOA Learning English (Level 1)の動画をそのまま Google Forms に組み込んだ、内容・語彙文法学習のための自動採点式クイズは、2020年度から利用している(山内, 2021; 山内他, 2021)。2021年度秋学期は、これに加えて、音声変化に慣れるためのトレーニングとして、動画ではなく音声を利用した自動採点式クイズを用意した。秋学期中にカバーした VOA レッソンは以下の通りである。それぞれのレッスンについて、動画クイズ(内容・語彙文法学習)と並行して音声クイズ(音声変化の練習)を事前課題とした。なお、Lesson 42 のクイズは2回実施し、最後に、内容・語彙文法については、全範囲をまとめた総復習の動画クイズを実施している。

1. Lesson 15 I Love People-Watching! 人物描写
2. Lesson 20 What Can You Do? スキル・得意なこと
3. Lesson 21 Can You Come to the Party? 誘いと返事 (Can, Have to など)
4. Lesson 24 Yesterday Was Amazing! 過去の出来事
5. Lesson 27 I Can't Come In 健康・体調・過去形
6. Lesson 38 She's My Best Friend 友人紹介・最上級
7. Lesson 42 I Was Minding My Own Business 状況説明・while vs during
8. Lesson 44 Making Health Choices 食べ物選び・mustn't vs don't have to
9. Lesson 50 Back to School 学校の課題・現在完了進行形

内容・語彙文法学習のための動画クイズは、1つのクイズに、5分程度のVOAレッスン動画を1つ、そのまま埋め込んで作成するだけですぐに作成できる。このレッスン動画は字幕がついており、音声変化に慣れるためのトレーニングでは使いにくく、細部の音声に注目して短い範囲を繰り返すには、5分は長すぎる。そこで、本実践では、VOA サイトからダウンロードしたmp3 ファイルを4~5個に分割(時には4~5箇所を抽出)し、それぞれの音声部分について空所補充型の設問をつけて、音声変化・リズムを身につけるための「音声クイズ」を作成した<sup>(4)</sup>。

例えば、Lesson 38 の音声クイズでは、4番目の音声は、Anna と旧友 Penelope が「今の仕事と昔の思い出」について話す40秒ほどの場面である。この40秒ほどの音声から3

問の空所補充問題を作った。そのうちの1問を図6に示す。図7が、この問題のフィードバックである。この例のように、音声面と文の意味解釈の両面から簡潔な解説を入れた。

- 【Anna】** It is really good to talk to you. New friends ( e ) good. But old friends are the best.→ **【Penelope】** I know. Our hometown ( f ) same now. You are not there. 1 point
- (e) a (f) isn't
- (e) a (f) isn't the
- (e) are (f) isn't
- (e) are (f) isn't the

図6 VOA 音声クイズ Lesson 38 の1題

〈音〉

- (a) friends\_are が連結 + are が弱化 (ほぼ a ぐらいの発音)  
(b) isn' (t) の /t/ が脱落→ isn't the が「イズンツダ」

〈語句〉

X isn't the same now = X は前とは違う・X は変わってしまった

\* 否定と now を使って「前とは違う」と表現できます。シンプル！

図7 VOA 音声クイズ Lesson 38 : フィードバック例

課題提出締め切り後、クイズの最後につけた振り返りコメントや、回答概要のグラフ(図8)を確認し、次の授業で解説・フィードバックを与えるべきポイントを検討する。授業時は、聴解のプロセスに注目を促すために、クイズの結果(図8)と学生からのコメントを合わせて、解説・フィードバックを与えた。例えば、図8のグラフを見ると、areの弱形(+前と連結)や、isn't theにおける/t/の脱落に対応できていない学生がいることが分かる。これに関して「[... ]aかareかが聞き取りずらかったです」というコメントもあった。このような段階の学習者は、意味処理や構文解析を同時に行う余裕がない。選択肢のない記述式回答であれば、areがかなり弱く発音されたfriends\_areを聞いて2単語に分

- (4) VOA Let's Learn English の各レッスンページで音声ファイルがダウンロードできる。Google Forms の使用上、mp3のままではクイズに埋め込めない。分割したmp3ファイルと静止画を組み合わせることでmp4に変換し、YouTubeにアップロードしてクイズに組み込んだ。手間がかかるため、今回は本実践の前に、1学期分として10レッスン分のみ用意した。

節できず、friends の1単語のみだと認識した可能性もある。このような具体的にどこか難しかったかが分かるコメントは、フィードバック時にとりあげ、なぜ迷うのかをプロセス面から明示的に説明するようにした。聞き取りがうまくいった学習者のコメントも同様で、「VOAの〔内容・語彙文法〕課題をやった後にやると内容が理解できているから聞き取りやすい」あるいは「aboutが最初わからなかったけれど何回か聞いたらわかりました」といったコメントを取り上げて「的確にプロセスを自己モニタリングできている」点を評価した。

【Anna】 It is really good to talk to you. New friends ( e ) good. But old friends are the best. → 【Penelope】 I know. Our hometown ( f ) same now. You are not there. 📄 Copy  
13 / 29 correct responses

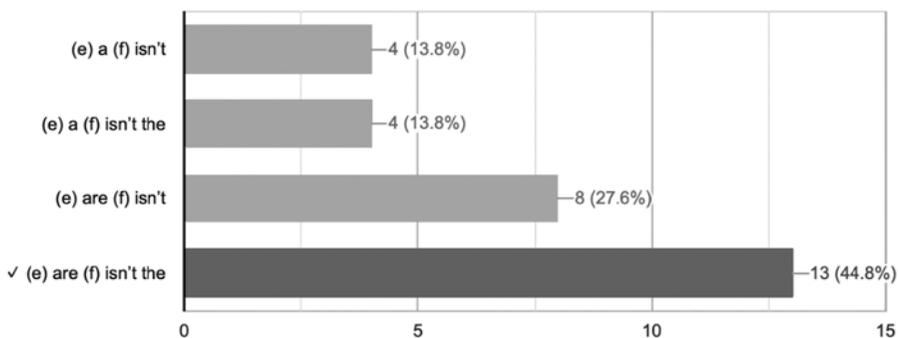


図8 VOA音声クイズ Lesson 38 : 回答概要

ここまで、VOAの音声クイズを中心に見てきた。音声クイズと並行して、内容理解や語彙文法学習のためのVOA動画クイズにも取り組ませている点も本実践の特徴である。ボトムアップ・スキルが未熟な学習者は、VOAのLevel 1のゆっくりとしたスピードでも、その速さで字幕の英文を処理することが難しいことがある。語彙知識へのアクセスが遅いか、英語の語順で理解する癖をつけていないか、あるいは両方の問題を持っている可能性もある。映像のヒントもある字幕付きのVOA動画は、この問題を克服するのに最適な素材である。また、本実践の音声クイズのように、ボトムアップスキルを鍛えることを目標としたトレーニングでも、トップダウン・スキルは使う方が自然である。その意味で、VOA動画クイズで内容を理解し、語彙文法知識を固めた上で音声クイズに取り組むという流れは理想的だと考えられる(3.1も参照)。

#### 4. ボトムアップ・リスニング能力の変化

3節では、学習効果があると想定した授業実践の概要を説明した。これらの学習活動・指導を経て、実際にボトムアップ・リスニングの能力に伸びが見られたかを、事前事後テストにより確認した。ボトムアップ・リスニングに限れば、比較的短期間で向上が見られる学習者もいることが予想されたため、事前事後テストは、学期初め(第1週)、学期中

間時点（第7週）、学期末（第13週）の3回実施した。

利用したのは、音声変化・リズムの違いにより誤答する可能性がある部分をターゲットにしたクローズ式書き取りテストである。以下に示す問題例のように、会話文の中で空所を作り、その周りの文は、文字情報を与えすぎないように■を1単語分として適宜隠した。下記の問題例の答えは at all であり、Look と at の連結、at と all の連結、at における弾音化した [t] が処理できるかを見る問題である。8つの会話でそれぞれ4つの空所を同様に作り、全32問のテストとした。

〈問題例〉

A : Let's ■ ■ ■ ■ , Jen.

B : Why? Look \_\_\_\_\_ the people. I ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ .

3回のテストのうち、全て受験したのは26名である。表2に示す通り、2回目（7週目）の時点で、平均値・中央値ともに10点以上の伸びが見られ、得点率ではいずれも8割近くに達した。その後、13週目までほぼ同じレベルが維持されている。図9と図10は、それぞれ1回目と2回目、1回目と3回目について、得点データの中央50%部分の範囲を比較したものである。これを見ても、中央50%に入る得点帯が2回目で大きく上昇し、3回

表2 3回受験者（n=26）の得点変化：64点中（得点率（%））

	Mean	Median	SD
1回目（第1週）	38.1 (59.5)	39.0 (60.9)	9.4
2回目（第7週）	49.1 (76.7)	51.0 (79.7)	11.3
3回目（第13週）	50.6 (79.1)	50.5 (78.9)	11.6

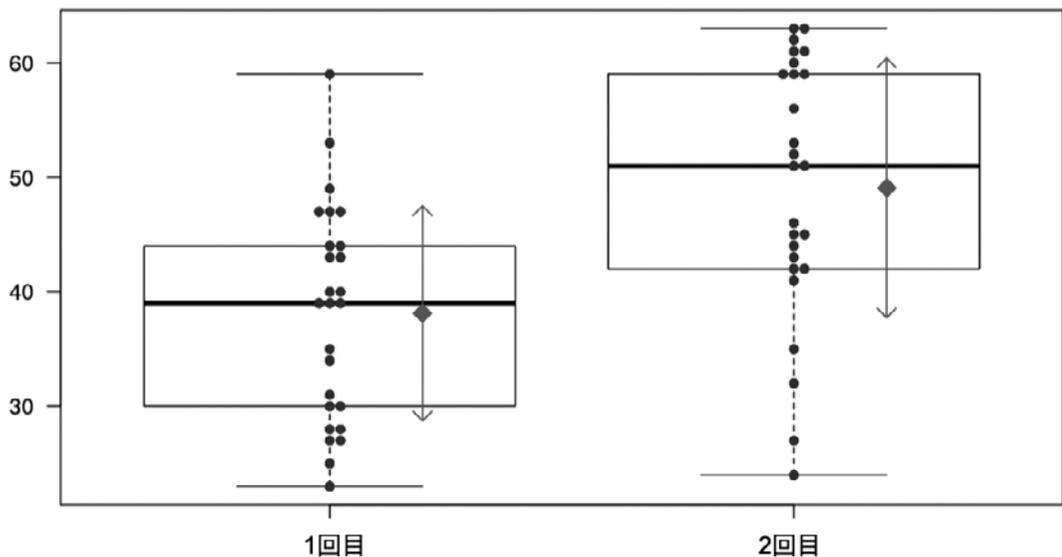


図9 3回受験者の1回目と2回目の四分位範囲（◆と矢印：Mean±SD）

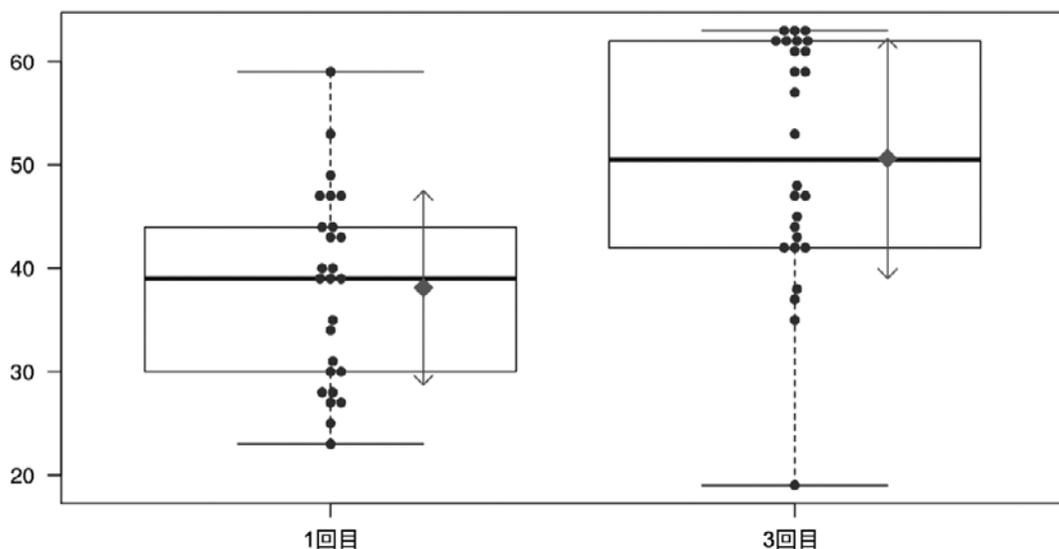


図10 3回受験者の1回目と3回目の四分位範囲 (◆と矢印:  $Mean \pm SD$ )

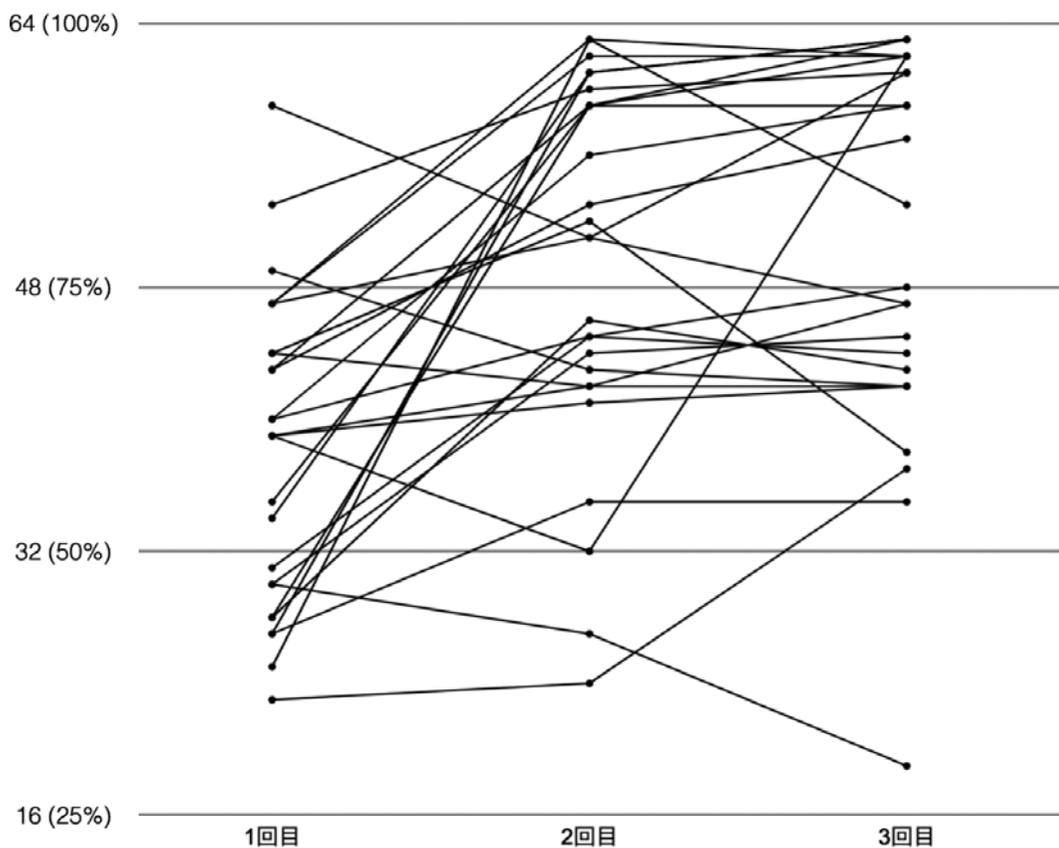


図11 3回受験者の得点推移

目もほぼ同じ水準を維持していることが分かる（表3も参照）。一方、図11は、3回受験した26名の個人ごとの得点推移を示すものである。2回目および3回目は、大半が高得点帯（75%-100%）と中得点帯（50%-75%）にいるものの、2回目から3回目に50%からほぼ100%まで上昇した者もいれば、高得点帯から中得点帯へと大幅に得点を下げた者もいる。

全体的な得点変化と分布の傾向は Wilcoxon の符号順位検定でも確認された<sup>(5)</sup>。表3に示す通り、〈1回目と2回目の差〉および〈1回目と3回目の差〉はいずれも有意に大きく、効果量も大きい（それぞれ  $p < .01$ ,  $r = .69$ ;  $p < .01$ ,  $r = .73$ ）のに対し、〈2回目と3回目の差〉は有意であるとは言えず、効果量も小さい（ $p > .05$ ,  $r = .22$ ）。〈2回目と3回目の差〉ではばらつきも大きい（ $V = 91.50$ ）。

表3 3回受験者の得点比較（Wilcoxonの符号順位検定）（ $N=26$ ）

	$V$	$p$ -value	effect size ( $r$ )
1回目-2回目	36.50	.0004124	.69
1回目-3回目	23.50	.0001822	.73
2回目-3回目	91.50	.2542	.22

以上をまとめると、ボトムアップ・リスニングの能力に関しては、本実践での学習活動・指導を6週間行った段階（7週目）で大幅に向上した学習者が多く、時間がかかった受講生も13週目には向上が見られた。英語の Connected Speech に見られる音声変化や日本語とのリズムの違いは、入門期になじんでおくべき基本的な項目であるが、仕組みや理屈を理解することが得意な大人であれば、比較的短期間で習得することが可能であることが確認できた。

一方、7週目の段階でほぼ100%に届いた学習者（最初の時点で100%近かった者もいる）に対して、次の目標を明確に示し、そのための一歩進んだ課題を提供することも重要であると思われる<sup>(6)</sup>。本実践では、授業内の解説・フィードバック時に随時示唆する、という形であったため、系統だった目標としては意識しにくかったかもしれない。また、上述のように、個別に見ると、伸び悩みが見られた学習者やスコアが下がった学習者もいる（図10も参照）。習得を阻害する要因（テスト形式や目標設定といった指導側の要因、学習者側の情意的な要因などが考えられる）を探ることも今後の課題である。

## 5. プロセス志向のアプローチの評価に向けて

本論の主題は「ボトムアップ・リスニングを向上させるためのプロセス志向のアプローチ」であるが、考察対象としている授業自体の目標は、ボトムアップ・リスニングだけを

(5) Langtest.jp (Mizumoto) の Comparing Paired Sample を利用した。

(6) オプションとして以下のサイトから追加課題を出したが、評価方法などは整備していない。https://sites.google.com/view/yamauchi-cuc-efl-resources/voa-level-2

ターゲットにしていたわけではない。授業の目標は、音声処理の面が弱いために語彙や文法を知っていても聞いたら分からないという状態は「もったいない」ので、その面を底上げし、「瞬発力」もあげて（自動化を進めて）、英語力を伸ばすことである。学期末の授業評価アンケートは、授業全体について学生からのフィードバックを得ることが主目的なのだが、ここでは、この授業評価アンケートから、本報告に関連する結果について考察する。特に自由記述を観察し、ここで目指しているプロセス志向のアプローチを評価しうる質問項目を検討したい。

まず、全体として「英語力が伸びたと思うか」という質問に対しては、9割近くの学生が英語力の伸びを実感できたと答えた（表4）。

表4 英語力の伸びは実感できたか (n=31)

とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
13	14	4	0

「伸びを実感」した27名のうちコメントを残した20名の自由記述から、どこに・どのように伸びを感じたかを整理しておく。なお「あまりそう思わない」と答えた学生のうち1名のコメントによれば、回答の理由は「まだ伸びしろがある」とのことだった。下記(1)と(4)は、「英語力」の中でも、特にリスニングの伸びに言及したコメントである。(1)では、分節化（単語認識）ができるようになった(a~d)、音声変化の処理ができるようになった(e~j)ことが実感できている。(2)はリーディングの速度の伸びに言及したコメントである。英語字幕を話されているスピードで理解できるようになったということであり、ここでもボトムアップ・リスニングの能力の伸びが見てとれる。(1)(2)は英語を理解するプロセスをモニタリングできているコメントであるが、(3)のように、クイズの得点で伸びを実感できたという学習者は、まだプロセスには注目できていないかもしれない。その段階の学習者にとって、「テスト」ではなく「練習」として自動採点式クイズを利用することは、スキルの伸びに目を向ける助けになったと考えられる。(4)は「英語力」の中でリスニングについては伸びが実感できたと言っているものの、それ以上のことは分からない。(1)~(3)の記述にあるような質問項目を用意することで、分節化・音声変化の処理・字幕理解の速度の面から、ボトムアップ・リスニングの伸びの自己評価を受講生全員について確認することができるだろう。

#### (1) ボトムアップ・リスニングの能力

- a. リスニングの力は伸びたと思う。英単語が聞き取りやすくなったと感じる。
- b. 前よりも多くの英単語を聞き取れるようになった。
- c. 聞き取れる単語が増えた。
- d. 聞き取れる英語が授業を受ける前よりは増えたと思うから。
- e. 英語のつながりを意識して聞けるようになった。
- f. 細かい前置詞などの聞き取り能力が鍛えられたと思う。
- g. リンキングやリダクションなどに少しは慣れてきました。

- h. 音声変化が分かった。
- i. 簡略化されているような英語の音声をしっかりと聞き取ることができるようになりました。
- j. 歌の聞き取りで聞き取りが出来ているなと思いました。

(2) リーディング速度

- k. 授業内で出た歌や VOA の字幕においていかれることがめったになくなりました。また、よく聞き取れなかった部分も字幕があればすぐに自己解決できるようになりました。
- l. 英文を理解するスピードが速くなったから。
- m. 読むのが早くなった。
- n. The use of words is more accurate, and the number of times of looking up the dictionary when reading English extra-curricular books is reduced.

(3) クイズの得点の伸び

- o. 音声クイズでは、以前より聞き取れるようになったと思います。回数を重ねるごとにスコアが伸びていて英語力が伸びたのかなと思いました。
- p. 最初は分からなかったのが二回目以降よくできていた。
- q. 始めと比べて、問題の正解率が上がった。

(4) 具体性不足

- r. 英文の聞き取りが前よりできるようになった
- s. リスニング能力が上がったと思ったため。
- t. 少し聞き取れるようになった。

次に、本報告の中心となる洋楽リスニング (3.2) と VOA 音声クイズ (3.3)、および音声クイズと併用した VOA 動画クイズの利用 (3.3) について、それぞれの満足度を見ておく。表 5 に示す通り全体として満足度は高い。

表 5 学習活動についての満足度 (n=31)

	とても満足 (%)	まあ満足 (%)	どちらかと言えば不満 (%)	とても不満 (%)
洋楽リスニング	20 (64.5)	10 (32.3)	1 (3.2)	0
VOA 音声クイズ	21 (67.7)	10 (32.3)	0	0
VOA 動画クイズ	22 (71.0)	9 (29.0)	0	0

洋楽リスニングは、「どちらかと言えば不満」と答えた 1 名以外は「とても満足」または「まあ満足」と回答している。自由記述 (23 件) を見ると、聞きなじみのある曲だとやりやすく (5a)、歌を聞くこと自体が楽しい (5b) だけでなく、歌詞が分かったり (5c)、

学習を楽しめる (5d) という動機付けに関わるコメントが多い。少数ではあるが、学習素材としての洋楽や解説に着目したコメントもあり、洋楽が音声変化や自然な発音を学ぶ助けになると実感でき (6)、音声変化やリズムについての解説も役に立ったようである (7)。なお「どちらかと言えば不満」という回答の理由は「個人的に洋楽はあまり聴かないから」であった。ここでも、(5)～(7) に分類した記述を参考に質問項目を立てることで、学習に対する動機付け効果と学習素材としての有効性を、好みの問題とは分けて確認することができるだろう。カテゴリとしては抽出しなかったが、歌はメロディーがあり長さも短いため、ニュースや物語、会話と比べて、反復練習を行いやすい素材でもある。今回の自由記述から動機付け効果が高いことは伺えるが、次の実践では実際に繰り返し練習したかどうかとも確認したい。

#### (5) なじみ感・楽しさによる動機付け

- a. 聞いたことのある曲でとてもやりやすかった。／中学生のころから授業で歌を利用した音声学修をしていたので、その延長戦の感じが良かった。知っている曲だとさらにいいなと思った。
- b. 知っている曲が来た時にテンションが上がるので楽しかった。／歌だと聞いていて楽しいから。／色々なジャンルの歌を知れてよかったです。
- c. 聞いたことのある歌だと歌詞の意味が知りたくなり興味がわいた。／聴きなじみのある曲でも歌詞に重きを置いて聞いてみるいい機会にもなったし、[...] / 普段何気なく聞いていた洋楽の歌詞を見て、どんな曲だったのかが知れてよかったです。／内容の理解もできたため。
- d. もともと知っている曲が多く、苦がなく単語や発音が覚えられたため。／いい曲で、聞こえるようになるのが楽しかったし、復習も苦ではなかったからです。／楽しみながら学習することができたから。／曲で英語に親しめた。

#### (6) 学習素材としての有効性・伸びを実感

- [...] ネイティブの発音に慣れるにはこれが一番いいのかもしれないと思った。
- 歌なので早い歌や遅い歌があったが、聞き取れる英語がこれをやって少しは増えたと思うから。
- 歌を通して英語の発音や意味など理解できたので、これからも続けてほしいです。
- 英語の発音の繋がりを理解することができたから。／音声変化が学べたからです。
- 音声変化を学べ、隙間時間で学習できるので良かったです。

#### (7) 洋楽リスニングの解説（動画版あり）の有効性

- 知っている歌はよく聞き取れましたが知らない歌は殆ど聞き取れませんでした。しかし、解説があったことによりすぐに理解することができました。
- スライドで解説されると、わかりやすくなっているのでいいなと思います。

VOA 音声クイズは全員が「満足」している。自由記述 (23 件) によれば、その理由は、音声クイズの使いやすさ (8)、スキルアップの実感 (9)、会話場面についてのリスニング

(10)、難易度の適切さ (11) に大別できる。最も多かったのが (8) である。音声分割して選択肢を用意するのは手間がかかるが、解説付きの自動採点式音声クイズを引き続き増やしていこうと考えている<sup>(7)</sup>。なお、(8) で言及されている「解説」は、クイズに埋め込んだものか、授業時に録画を残した解説か、その両方なのか判別できない。しかし、クイズの自動フィードバックとして埋め込んだ解説は文字情報のみであり、いずれにせよ、授業時の音声でのフィードバックによる補足は欠かせないため動画版解説も継続していく<sup>(8)</sup>。質問項目としては、(8) (9) の記述を参考に、クイズ自体のメリットと動画解説のメリット、それらを利用して反復学習を行ったかどうか、音声変化の処理・単語認識の速度について伸びを実感できたかなど、具体的に確認できるよう整備したい。(10)にあるような、内容理解や会話の文脈と関連づけることのメリットについても、受講生全体に確認したい項目である。

(8) 使いやすさ：短く分割した音源＋自動採点＋解説つき

- 短いセンテンスに集中することで、VOAを一気に聞いた時より細かい発音に注意することができたからです。
- 何度も聞いてリスニングの力を鍛えることができたから。／わかりやすく、繰り返し復習できるため。／聞き取れないときにはすぐ戻って聞き直しやすく、これで聞ける英語は少しは増えたと思うから。
- 間違えたところを確認しやすかった。／課題が浮き彫りになるので良かったです。
- 解説等も出してくれるため。／解説がありよかった。

(9) スキルアップを実感：音声変化の処理・単語認識の速度

- 脳や耳が英語に慣れて、最初の頃より聞き取ることができるようになったから。／聞き取る力が少し上がったと感じたから。／英語の上達につながった。
- リスニングの能力が向上し、すぐに何を言っているのか理解できるようになった。
- 音声変化がわかるようになりました。／つながっている音などを聞き取る力が上がった。／知らない発音を多く知れてよかったです。

(10) 会話場面のリスニング

- 一度見た動画で音声クイズをするので、内容や前後関係から空欄を予想することができたのでよかったです。
- 聞き取りは実生活にも使いそうなので良かった。

---

(7) VOA 音声クイズの作成については、先生方のご協力も得られるようになってきており、今後は共同開発の効率的な進め方についても検討していきたい。

(8) Google Forms を利用したクイズでは、自動フィードバックに動画を含めることも可能ではある。が、音声クイズはそれ自体、作るのに手間がかかるので、まずはこちらの数を増やすことを優先している。すでに作ったクイズを随時改変・改良できるのは、Google Forms のクイズの強みでもある。

(11) 難易度

- 難しかった箇所が多く、これからもやりたいと思いました。
- 難易度的にはそれほどでもないのかもしれないが、自分にはちょうど良くあった。

最後に、VOA 動画クイズについても見ておく。上述の通り (3.3), 本実践では音声変化等に注目する VOA 音声クイズと平行して、VOA のストーリーの内容理解や語彙文法を学習する動画クイズもメイン教材であった。この動画クイズについても全員が満足している。自由記述 (23 件) によれば、(12) にまとめたように、VOA 動画レッスンそのものの良さに言及している者が多く、VOA Learning English の教材としての良さを改めて感じている。それ以外では、(13) のような、フィードバック付き自動採点式クイズの良さ (間違いをすぐ確認できる・反復しやすい) や録画に残した授業時のフィードバックの良さ (復習になる・動画は見返ししやすい) に言及するコメントが多く、このやり方は継続していこうと考えている。それ以外は難易度について言及したもので (14), Level 1 (Beginner Level) が決して易しすぎるわけではないことが確認できた。しかし、授業にとってはメイン教材であるとはいえ、音声変化の処理能力の向上には直接関わる学習ではない。上で見たように、音声クイズと内容理解を関連づけるメリットを重視した質問項目を整備すべきだと考える。

(12) VOA 動画レッスンの良さ：映像の力・日常的な場面での会話・聞き取りやすさ

- You can further understand the dialogue of the characters through their expressions and actions in the video, which is very interesting.
- 楽しかったです！いろんなストーリーがあってそれについて答える VOA は特に面白かったです！
- 教科書の長い文章で英語を学ぶのではなくて、日常会話を学べたので楽しかったです。
- 日常生活で使える場面を想定しながら学習できたから。／文法の実践的な使い方が学べたから。
- 英語が聞き取りやすく、内容も分かりやすかったから。／実際に英語を聞く能力の向上にとっても役立ちました。

(13) 自動採点式クイズ+解説の良さ

- 毎回回答をすぐに確認できたためどこが間違っていたのかすぐにわかり改善することができました。／間違えたところを確認しやすく、間違えたところの解説が答えのすぐそばにあり復習しやすかったから。
- 授業の初めに丁寧に解説してくれたのがいい復習になってよかった。／わからないところがあってもしっかりとした解説があった。／解説等も出してくれるため。
- (解説が) 動画だと後から見返すこともできるので、良かった。文法も復習できた。
- わかりやすく、繰り返し復習できるため
- 英語を聞き取り内容をまとめるのでスキルがアップした気がする。

#### (14) 難易度

- 自分のレベルにあっていたのでよかったです。
- あまり正答率はよくなかったですが楽しかった。／ちょっと難しかった。

以上をまとめると、13週目に授業評価として行った意識調査によれば、9割近くの学生が「英語力」の伸びを実感できたと答えており、自由記述では多くがリスニングの伸びに言及した。リーディングの伸びに言及したコメント（英語字幕を話されているスピードで理解できるようになった）からもボトムアップ・リスニングの能力の伸びがうかがえる。また自分が英文を理解するプロセスをモニタリングできていることが伺えるコメントも多く見られた。

学習活動別に見ると、洋楽リスニング・VOA 音声クイズ・VOA 動画クイズのいずれについても概ね満足度は高い。自由記述の観察から全体的に言える点は以下のようにまとめられる。音声クイズは初の利用となったが、これを含めて、引き続き同様のやり方で利用して良さそうである。

- 洋楽リスニング：「歌を聞くこと自体が楽しい・知りたいという興味がわく・聞こえるようになると楽しい」というように、動機付けの面での効果の高さが示唆された。
- VOA 音声クイズ：満足した理由として、音声クイズの使いやすさ（分割したことによる集中・反復のしやすさなど）に言及した者が最も多い。
- VOA 動画クイズ：VOA 動画レッスンそのものの良さに言及している者が多く、VOA Learning English の教材としての優秀さが確認できた。また、フィードバック付き自動採点式クイズの良さ（間違いをすぐ確認できる・反復しやすい）への言及も多かった。

また、ここで目指している「プロセス志向のアプローチ」がどの程度うまく機能したか、学習者自身が聴解プロセスをモニタリングできているかについては、現時点では、授業評価アンケートの自由記述に言及された事項から「そのような学習効果があったことがうかがえる」学習者もいる、というところまでしか言えない。これらについては、以下のような質問項目を通して確認できるのではないかと考えている。重複部分を整理した上で、相当する事前調査も整備したい。

- ボトムアップ・リスニング能力（cf. (1)～(3), (6), (9)）：分節化・音声変化の処理・字幕理解の速度の面から伸びを自己評価できているか／得点変化による判断に依存しているか
- 洋楽利用（cf. (5)～(7)）：学習を楽しめるか／学習素材としての有効性を認識しているか／動画解説の有効性を認識しているか／実際に繰り返し練習したか
- 音声クイズ利用（cf. (8)～(10)）：音声クイズの有効性を認識しているか／動画解説の有効性を認識しているか／それらを利用して反復学習を行ったか／音声変化の処理および単語認識の速度について伸びを実感できたか／内容理解や会話の文脈と関連づけることのメリットを認識しているか

- 動画クイズ：内容を理解した上で音声クイズに取り組むメリット（(10)を参照）を認識しているか／（間接的な関与（cf. (12) (13)）：映像・字幕付きのストーリーの有効性を認識しているか／動画クイズの有効性を認識しているか・動画解説の有効性を認識しているか／それらを利用して反復学習を行ったか）

## 6. おわりに

英語のリスニングにおいて、ボトムアップ処理に困難を抱えている日本人学習者を対象として、どうしてできなかったのかを明確にし、できるようになるためのサポートを提供するには、プロセス志向のアプローチが必要である。本稿では、この考えに基づき、プロセス志向のアプローチの事例として行った、ボトムアップ処理の向上を目指すリスニング指導について報告した。英語のリズムや音声変化に対処して適切に分節化を行う力を測るクローズテストを、授業1週目・7週目・13週目に実施し、聴解プロセスに注目する指導と学習（練習）課題への取り組みを経て、ボトムアップ・リスニングの能力が実際に伸びたかどうか、どの程度の時間が必要かを確認した。2回目のテストの時点で大幅な向上を見せた学習者が多く、13週目までには1人を除き全員が低得点帯から抜け出した。ボトムアップ・リスニング能力については、比較的短期間で習得することが可能であることが確認できた。ただし、短期間で伸びが期待できるがゆえに、一定の伸びを示した学習者に対しては、次の目標を明確に示し、そのための一歩進んだ課題を提供することが重要だと思われる。また、中には伸び悩んでいたりスコアが下がった学習者もあり、習得を阻害しうる要因を探る必要がある。これらが今後の課題である。

また、授業評価アンケートの形で実施した意識調査を通して、本報告に関わる学習活動について考察を加え、学習者が自身の聴解プロセスに注目できているかを含めて、ここで目指すプロセス志向のアプローチを評価しうる質問項目を検討した。9割近くの学生がこの授業を通して英語力の伸びを実感できており、自由記述では多くがリスニングの伸びに言及しており、その他の記述からもボトムアップ・リスニングの能力の伸びがうかがえた。学習活動別では、洋楽リスニング・VOA音声クイズ・VOA動画クイズのいずれについても概ね満足度は高く、自由記述の観察からも、初めて導入したVOA音声クイズを含めて、引き続き同様のやり方で実施しても問題ないと判断している。自動採点式の音声クイズや動画版解説についても、引き続き、利用しながら作成を続けていく予定である。現時点では、ここで目指している「プロセス志向のアプローチ」がどの程度うまく機能したか、学習者自身が聴解プロセスをモニタリングでき、学習に活かしているかという点については「そのような学習効果があったことがうかがえる」学習者もいる、としか言えない。本稿では、今後これらを確認・評価するために、自由記述で言及された事項を検討し、質問項目の整理を行った。

### [参考文献]

Baddeley, A., Gathercole, S., & Papagno, C. (1998) The Phonological Loop as a Language Learning Device. *Psychological Review*, 105(1), 158-173.

- Fallahcha, R. (2011). The Effects of Use of Learning Strategies Training on Students Foreign Language Vocabulary Learning. *International Journal of Scientific Research in Education*, 4 (3&4), 181-189.
- Graham, S. (2016) *Research into Practice: Listening Strategies in an Instructed Classroom Setting*. Cambridge University Press. <https://www.cambridge.org/core/journals/language-teaching/article/research-into-practice-listening-strategies-in-an-instructed-classroom-setting/CA62F4121A1410A7D15D7A7A15BA336A#> (閲覧日：2022.5.1)
- 廣谷定男(編著) (2017) 聞くと話すの脳科学. 日本音響学会編. 音響サイエンスシリーズ, 17. コロナ社.
- Jones, T. (2022) Why Do We Need to Teach Listening. In Reed, M. & Jones, T. (eds.), (2022), *Listening in the Classroom: Teaching Students How to Listen*, Tesol Press, Introduction.
- 門田修平 (2007) シャドーイングと音読の科学. コスモピア.
- 門田修平 (2015) シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学. コスモピア.
- 門田修平 (2018) 外国語を話せるようになるしくみ：シャドーイングが言語習得を促進するメカニズム. コスモピア.
- 掛谷舞 (2004) リスニング能力を高める音声指導の試み；大学一年生を対象として. *近畿大学語学教育部紀要*, 3(2), 23-36.
- 熊井信弘 (2021) 英語のリスニング能力を高めるための授業実践：音声変化のアウトプットを中心に. *言語文化社会*, 19, 55-68
- 中村博生 (1997) 映画英語学習による音変化の習得がEFL学習者の聴解力に及ぼす影響, *ATEM (映像メディア英語教育学会) ジャーナル*, 3, 39-49.
- 西原真弓 (2012) リスニング力向上を目的とした指導のあり方. *活水論文集：英語学科編*, 55, 1-23.
- 牧野真貴 (2012) リスニングにおける洋楽聞き取りの効果検証 (英語に苦手意識を持つ大学生を対象として). *リメディアル教育研究*, 7(2), 265-275.
- Mizumoto, A. *Langtest.jp* <https://langtest.jp/>
- Reed, M. (2022) Source of Mishearing: Identifying and Addressing Listening Challenges. In Reed, M. & Jones, T. (eds.), (2022), *Listening in the Classroom: Teaching Students How to Listen*, Tesol Press, Chapter 6.
- 執行智子・カレイラ松崎順子 (2014)
- Yamauchi, M. (2020). Active Learning in the Japanese EFL Classroom. *千葉商大紀要*, 57(3), 71-94.
- 山内真理 (2021) 「ニューノーマル」時代の外国語語教育：授業・学習の「サイクル」をめぐって. *千葉商科大学紀要*, 58(3), 51-86
- 山内真理・菅原典子・村上真紀・吉田由美子・日高美奈子 (2021) CUC 選択語学科目の授業実践報告：遠隔環境におけるコミュニケーション実践とICTの有効活用. *千葉商大紀要*, 59(1), 1-24.
- 山内優佳 (2014) 英語リスニング不安とリスニングの下位技能の関係：リスニング不安の

概念の細分化によるリスニング指導への具体的提案. 「英検」研究助成報告, 26, 50-67.

山内豊 (2005) 日本人英語学習者にとっての音変化の難易度に関する実証的考察. 東京国際大学論叢 商学部編, 71, 85-95.

湯舟英一 (2007) 長期記憶と英語教育 (1): 海馬と記憶の生成, 記憶システムの分類, 手続記憶と第二言語習得理論. 東洋大学人間科学総合研究所紀要, 7, 147-162.

湯舟英一・峯慎一・國分有穂 (2013) TOEIC 演習を利用したボトムアップ処理に基づく聴解力強化のための e-learning 教材の開発. 東洋大学人間科学総合研究所紀要, 15, 147-159.

(2022.5.6 受稿, 2022.6.22 受理)

〔抄 録〕

本稿では、英語のリスニングにおいて、ボトムアップ処理の時点で困難を抱えている日本人学習者を対象として、どうしてできなかったのかを明確にし、できるようになるためのサポートを提供すべく、ボトムアップ処理の向上を目指す「プロセス志向」のリスニング指導を組み込んだ授業について実践報告を行った。3回実施したボトムアップ・リスニングの能力（英語のリズムや音声変化に対処して適切に分節化を行う力）を測るテストの結果、7週目、多くの学習者が2回目のテストの時点で大幅な向上を見せ、本実践での指導・学習活動がボトムアップ・リスニング能力の向上を助けたこと、また、ボトムアップ・リスニング能力については、比較的短期間で習得することが可能であることが確認できた。

また、授業評価アンケートの形で実施した意識調査を通して、本報告に関わる学習活動について考察を加え、学習者が自身の聴解プロセスに注目できているかを含めて、ここで目指すプロセス志向のアプローチを評価しうる質問項目を検討した。ほとんどの学生が授業を通して英語力の伸びを実感し、自由記述からボトムアップ・リスニングの能力の伸びがうかがえた。学習活動別で見ても、いずれにも満足度は高く、引き続き同様のやり方で実施しても問題ないと判断できる。ここで目指す「プロセス志向のアプローチ」がどの程度うまく機能したか、学習者自身が聴解プロセスをモニタリングでき、学習に活かしているかという点については、現時点では「そのような学習効果があったことがうかがえる」学習者もいる、としか言えない。本稿では、今後これらを確認・評価するために、アンケートの自由記述で言及された事項を検討し、質問項目の整理を行った。